

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4676800156
法人名	社会福祉法人 橋友会
事業所名	グループホーム 南の家族
訪問調査日	平成 21 年 5 月 15 日
評価確定日	平成 21 年 6 月 24 日
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年5月23日

【評価実施概要】

事業所番号	4676800156
法人名	社会福祉法人 橋友会
事業所名	グループホーム 南の家族
所在地	鹿児島県志布志市志布志町志布志2丁目27番18号 (電話) 099-472-8485

評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会		
所在地	鹿児島市城山1丁目16番7号		
訪問調査日	平成21年5月15日	評価確定日	平成21年6月24日

【情報提供票より】21年5月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 8 月 11 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 15 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 15.	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	4 階建ての 階 ~ 1 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000円(水道光熱費込)	その他の経費(月額)	実費	円
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1日当たり		800	円	

(4) 利用者の概要(5月1日現在)

利用者人数	17 名	男性	3 名	女性	14 名
要介護1	5 名	要介護2	4 名		
要介護3	5 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 85.6 歳	最低	76 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	藤後病院 ・ 藤後クリニック ・ 春日歯科医院
---------	-------------------------


【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

JR日南線の志布志駅より徒歩7分の所に、同法人が所有する4階建てビルの1階部分に、グループホーム南の家族がある。4階からは、志布志湾を眺めることができ景色の良いところである。広い敷地の庭には、南国の植物や花が植えられ利用者の目を楽しませている、又利用者から手ほどきを受けた季節の野菜が、食卓に上がり利用者の舌を満足させている。職員は利用者が笑顔になれる生活を心がけ、季節毎の行事の他、外食やドライブなどを計画し楽しめるように支援している。医療連携の体制も確立され、医師や看護師による健康管理が行われ、利用者も家族も安心できるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価の結果については、運営推進会議や職員会議でも報告されている。特に改善点についてはなく、作り変えた理念にさらに文言を加えるなどのアドバイスを取り入れている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員全員が時間を作って数項目づつ話し合ったものを、ミーティング等で検討し管理者がまとめている。職員はケアの振り返りの機会とし、さらに意見の中には、男性職員が入職したので利用者を温泉に連れて行き楽しんでほしいという声上がり、今後、検討していくことにしている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>平成19年度は年6回の会議を開催していたが、20年度は諸事情により不定期な開催となっている。家族代表、民生委員、地域包括支援センターの職員などが参加して、事業所の活動状況、利用者の状況、外部評価の結果報告などを行い意見交換を行っている。管理者は運営推進会議をより活発なものにして行く為の工夫と、地域代表や家族代表に継続して参加してもらえるように、また、地域参加者を増やしていく為の工夫の必要性を認識し取り組みしていくところである。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族会は年1回行われ家族の意見を聞く機会としており、感謝の言葉は聴かれるが、特に運営に対する苦情というものは上がっていない。面会時に職員の対応に対する注意や職員の名前がわからないという内容についての意見を頂き、すぐに職員会議で報告し改善についての話し合いが行われている。職員の名前については、家族にもわかるように首からネームを掲げる様に改善し運営に反映させている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>日頃から近隣住民とのお付き合いを大切にし、利用者と散歩している時や洗濯物を干しているときなど挨拶や立ち話をしている。地域の清掃活動に参加したり、中学校の職場体験の受け入れ、近くの保育園児との交流も行っている又、事業所で行う行事、夏祭りや敬老会などにも参加してもらっている。地域から4階建ての建物なので、台風や水害時の避難場所に提供してほしいという希望があり、法人として検討しているところである。</p>

2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を理解し、「住み慣れた地域の中で、心のかよい合う温もりのある家族を築きましょう」という事業所独自の理念を作っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人の理念と一緒にリビングに掲げている。職員は、毎朝のミーティングで理念を唱和することで意識付けを行い、近隣住民とのあいさつやコミュニケーションを心がけている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の清掃活動に参加したり、お釈迦祭りの見学、保育園児との交流、スーパーのイベントに参加するなど、事業所で行う敬老会や夏祭りには、地域の方を招待し一緒に楽しんでいる。地域から、建物を台風や水害時の避難場所として提供するという希望があり、法人として検討中である。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員が時間を作って数項目づつ話しあったものを、ミーティング等で検討し管理者がまとめている。自己評価を通して、男性職員が入職したこともあり、利用者を温泉に連れて行き楽しんでもらいたいという意見が上がり、検討していくところである。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成20年度は不定期な開催となったため、家族代表や地域代表の参加が少なく、討議内容についても事業所の報告に留まり、活発な意見交換ができなかったため、管理者は取り組みの工夫の必要性を認識し改善に取り組むところである。	○	運営推進会議では、報告や情報交換に止まらず話し合いを通じて参加者から率直な意見をもらえるようにするために、参加者に運営推進会議の意義や役割を十分に説明し、理解してもらえるように働きかけていくことを期待します。

鹿児島県 グループホーム 南の家族

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所の運営や現場の実情等を報告したり、書類上の不明な点や事故報告などについて、担当窓口に行き相談しながら、サービスの質の向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	3ヶ月に1回「南の家族だより」を発行し、活動状況、行事予定、職員の異動についてなどを報告し、利用者の担当職員が日頃の様子などのコメントを書き加えて送付している。お小遣いを預かっている利用者もおり、出納簿をつけ領収書をコピーして家族に送っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会は年1回行われ家族の意見を聞く機会としているが、感謝の言葉はあっても運営に対する意見や苦情は上がっていない。面会時に職員の対応についての注意や、職員の名前が不明という意見があり、すぐに職員会議で話し合い、接遇の指導をすると共に職員は名札を首から下げるようにした。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職を最小限にする為に、職員の希望を組み入れた勤務調整をしたり、常に人間関係がうまくいくように配慮している。ユニット間での異動は、雰囲気を変えるために行うこともあるが、お互い合同行事もあり日頃から交流があるため馴染みの関係ができており支障はない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体での勉強会が年3～4回あり、事業所内では、感染・安全・教育・身体拘束廃止・防災・レクリエーション・苦情相談・家族会などの委員会が作られており、2ヶ月に1回実施しミーティングで報告している。外部研修も、希望者を優先し偏らないように順番で参加、ミーティングで報告している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大隅地区グループホーム連絡協議会に参加し、事例検討会や交流会に参加しケアに活かしている。志布志地域のグループホーム関係者が集まれるように、地域包括センターと連携をとっているところである。	○	管理者・職員が地域の同業者との交流や相互訪問等の機会を持つことで、事業所内で行き詰っている仕事の悩みの解消やお互いのサービス向上に繋げられるようになることを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	同じ建物内にあるケアハウスからの入所の方は、交流する機会も多く馴染みの関係が築けている。自宅からの場合は、本人と家族に見学して雰囲気を感じてもらっている。病院からの場合は、職員が出向き馴染みの関係を築けるよう努め、入居後は家族に面会を増やす協力をお願いし安心して生活できるように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者と一緒に茶を飲みながら昔の話を聞いたり、梅干作りやラッキョウ漬、料理の味付けなどを教えてもらった時は感謝の言葉を伝えている。利用者は、「大変やな」と職員を労わりながら、進んで洗濯物を畳んだり拭き掃除をしてくれるなど、お互い支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時に本人、家族からアセスメントをし、入居後は、担当職員が関わる日常生活の会話や行動、態度などから本人の意向や家族の思いを把握しプランに上げ、細かな計画項目を作成している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	各ユニット毎にカンファレンスを月1回職員全員で行い、気づきや意見を出し合い、担当者会議に出席できない家族には、面会時や電話等で意見を確認している。本人、家族、職員の意見と主治医の意見書を参考にしながら介護計画書を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎朝のミーティングで変化のあった利用者の情報交換を行い共有している。変化のない利用者の場合でも3ヶ月に1回モニタリングを行い見直し、状況に変化があった場合には、関係者と話し合い新しい介護計画書を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	看護師による日々の健康管理と複数の医療機関の連携により定期往診の支援、入院した場合はお見舞いに行ったり、通院での送迎や衣替えでの帰宅、外泊の支援など柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望するかかりつけ医となっている。通院には職員が付き添い、適切な診療が受けられるよう情報提供し、診療後の情報は申し送りノートに記載し職員が共有している。受診内容によっては家族に電話で報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りの指針については作成されているが、契約時は体調が良いため、重度化した場合の話し合いは難しいので、入所後の状態変化を見ながら指針の説明をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーを損ねる声かけや対応については、ミーティング等で意識付けを行っている。馴れ合いを感じた時など管理者はその場で指導している。男性職員が入浴介助を行う場合には、利用者に確認している。個人情報使用の同意書をとっており、職員の守秘義務についても契約書に謳っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の基本的な流れはあるが、時間を区切るようなことはせず、利用者のペースに合わせて支援している。起床時間がゆっくりの人、朝食はパンの人、夜寝る前には梅酒を飲む人などがいたり、買い物や散歩に行きたいなど希望に沿って支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の食事は、利用者も一緒に手伝いながら職員と同じテーブルを囲んでいるが、特別な日の食事を楽しむため、誕生日には本人の好物を提供したり、ラーメン屋台に来てもらったり、外食に送迎バスを利用し、景色を楽しんだ後に食事も満足できるようにと職員はアイデアを出し合いながら支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴できる体制は整っていて、利用者は週3回以上入浴している。職員は必ず見守り、利用者に応じて入浴剤を入れたり、シャワー浴にしたりと会話しながらゆっくり入ってもらっている。拒否される方には、無理強いせず翌日に予約する形で入ってもらうなど工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の得意とする、洗濯物、買い物袋、新聞たたみ、盛り付け、生け花、草取りなどを見つけ楽しみながら役割をもらっている。毎日、生活リハビリをしながら機能維持に努め、歌や風船パレー、買い物、ドライブ、季節の行事など楽しみ、気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	敷地内は広く、芝生になっているので天気の良い日には外気浴を楽しんだり、お茶を飲んだりしている。2日に1回は近くのスーパーに野菜を買い出しと一緒にいたり、いつでも戸外にでれるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の扉は手動で開けられるようにしてあり日中鍵はかけていない。外出傾向にある利用者を職員は把握しており、出たい様子の時は一緒に付いていくなど見守りの介護をしている。万が一の外出に備え近隣の方にも協力を依頼している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回のうち1回目が、消防署指導の下に避難誘導訓練、消火訓練を行い、2回目が夜間想定自主訓練を行っている。近隣の方々にも参加して頂き、避難後の利用者の見守りなどの協力をお願いしている。非常食の準備はできている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による献立となっている。食事、水分の摂取量についてもチェックされ、水分の目安は1日、1000cc～1300ccとしており、食事以外でも10時15時20時の水分摂取を心がけている。食事形態も利用者の状態に応じて対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの中央からすべての居室が見えるようになっている。朝は、居室もすべての窓を開けて換気している。ホールの天窓からはやさしい光が入り明るく、対面式の台所からご飯の炊ける匂いや包丁の音が聞こえ、利用者が集まってテーブルで話をしたり、テレビを見たりしている。玄関や洗面所には季節の花が飾られ居心地良い空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	和室の居室が2部屋あり畳に上がる段があったが、身体機能の低下もあり手すりを付けスロープにしている。居室のドアには違う暖簾が掛けられている。ベットと布団は備え付けだが、テレビ、冷蔵庫、ソファ、タンス、など使い慣れた物が持ち込まれ、家族の写真、お花、作品の焼き物などが飾られ、その人らしい部屋となっている。		